令和３年度全国学力・学習状況調査　　小学校調査

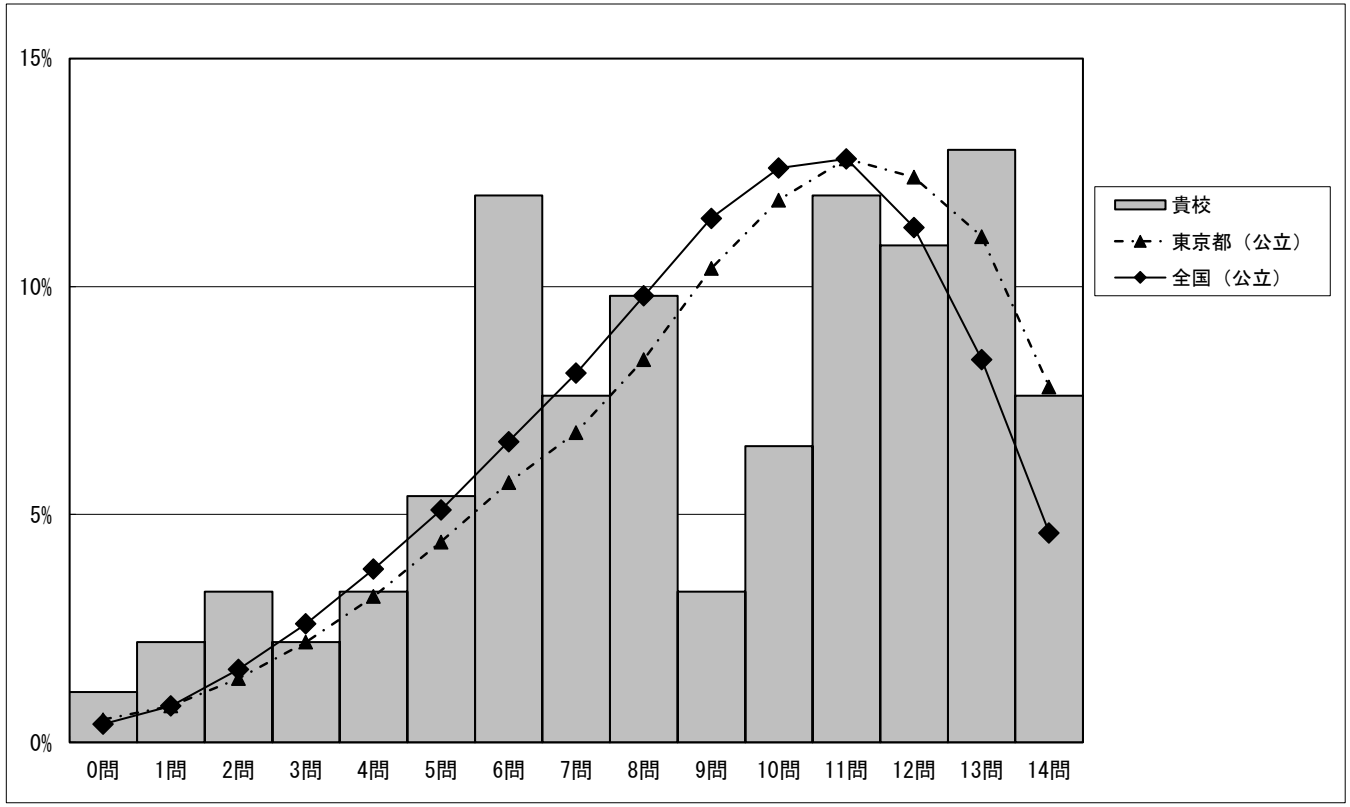
調査結果概況　［国語］

江戸川区立二之江第二小学校ー児童

・以下の集計値／グラフは，５月２７日に実施した調査の結果を，児童を対象として集計した値である。
※ただし，５月２７日に調査を実施していない学校については，５月２８日以降６月３０日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	児童数	平均正答数	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
江戸川区立二之江第二小学校	92	8.9 / 14	64	10.0	3.6
東京都（公立）	94,079	9.5 / 14	68	10.0	3.2
全国（公立）	993,975	9.1 / 14	64.7	9.0	3.1

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



正答数集計値

	正答数	児童数	割合（%）		
		貴校	貴校	東京都（公立）	全国（公立）
	１４問	7	7.6	7.8	4.6
	１３問	12	13.0	11.1	8.4
△	１２問	10	10.9	12.4	11.3
	１１問	11	12.0	12.8	12.8
◇	１０問	6	6.5	11.9	12.6
	９問	3	3.3	10.4	11.5
	８問	9	9.8	8.4	9.8
	７問	7	7.6	6.8	8.1
▽	６問	11	12.0	5.7	6.6
	５問	5	5.4	4.4	5.1
	４問	3	3.3	3.2	3.8
	３問	2	2.2	2.2	2.6
	２問	3	3.3	1.4	1.6
	１問	2	2.2	0.8	0.8
	０問	1	1.1	0.5	0.4

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴校	東京都（公立）	全国（公立）
△　第３四分位	12.0問	12.0問	11.0問
◇　第２四分位	10.0問	10.0問	9.0問
▽　第１四分位	6.0問	7.0問	7.0問

上表の通り、令和3年度の平均正答率は、東京都平均から4ポイント、全国平均から0．7ポイント下回っている。観点別にみると、特に「思考・判断・表現」における「書くこと」で東京都平均正答率から落ち込みが9ポイントみられた。
授業実践のなかで，自分の考えや感じたことを書く時間を増やすなど，日常的に「書く」活動に取り組ませていく。伝えたいことをを筋道を立てて書くことができるように，構成や展開を工夫させたり，理由や根拠をはっ

授業実践のなかで、自分の考えや感じたことを書く時間を増やすなど、日常的に「書く」活動に取り組ませていく。伝えたいことを筋道を立てて書くことができるように、構成や展開を工夫させたり、理由や根拠をはっきり書かせていく学習活動を積み重ねていく。

令和３年度全国学力・学習状況調査　　小学校調査

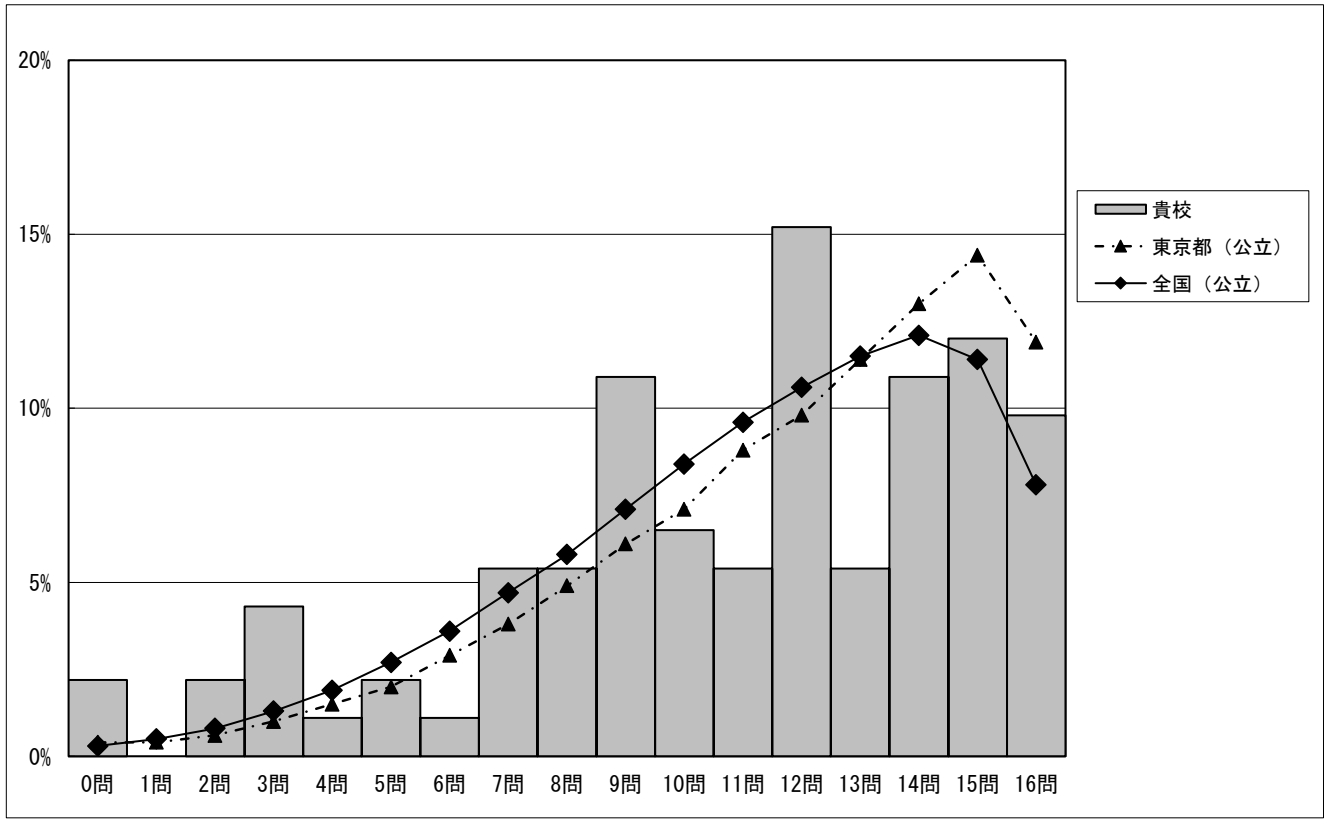
調査結果概況　［算数］

江戸川区立二之江第二小学校－児童

・以下の集計値／グラフは，５月２７日に実施した調査の結果を，児童を対象として集計した値である。
※ただし，５月２７日に調査を実施していない学校については，５月２８日以降６月３０日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

	児童数	平均正答数	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
江戸川区立二之江第二小学校	92	10.8 / 16	68	12.0	4.0
東京都（公立）	94,098	11.8 / 16	74	13.0	3.5
全国（公立）	994,101	11.2 / 16	70.2	12.0	3.5

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



正答数集計値

	正答数	児童数	割合（%）		
		貴校	貴校	東京都（公立）	全国（公立）
	１６問	9	9.8	11.9	7.8
	１５問	11	12.0	14.4	11.4
△	１４問	10	10.9	13.0	12.1
	１３問	5	5.4	11.4	11.5
◇	１２問	14	15.2	9.8	10.6
	１１問	5	5.4	8.8	9.6
	１０問	6	6.5	7.1	8.4
▽	９問	10	10.9	6.1	7.1
	８問	5	5.4	4.9	5.8
	７問	5	5.4	3.8	4.7
	６問	1	1.1	2.9	3.6
	５問	2	2.2	2.0	2.7
	４問	1	1.1	1.5	1.9
	３問	4	4.3	1.0	1.3
	２問	2	2.2	0.6	0.8
	１問	0	0.0	0.4	0.5
	０問	2	2.2	0.4	0.3

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴校	東京都（公立）	全国（公立）
△　第３四分位	14.0問	15.0問	14.0問
◇　第２四分位	12.0問	13.0問	12.0問
▽　第１四分位	9.0問	10.0問	9.0問

上表の通り、令和3年度の平均正答率は、東京都平均から6ポイント、全国平均から1．8ポイント下回っている。観点別にみると、特に「思考・判断・表現」における落ち込みがみられている。習熟度別算数少人数のなかで、より問題解決型の実践に力を入れていく。課題に対して、自力解決・話し合い・共有の取組という流れを授業のスタンダードとし、校内で共通実践していく。また、個別に支援が必要な児童については、課題の数値を簡略化したり、ヒントカードを提示したりして、課題解決のプロセスをより細分化して支援を行っていく。